

**ウェルビーイング学会、
四半期ごとの日本と都道府県別のGDW（ウェルビーイング実感）を公表！
日本全体で前期比3ポイント減。都道府県別では神奈川県が1位に。**

ウェルビーイング学会は、日本版Well-being Initiative（※1）・Global Wellbeing Initiative（※2）との協力のもと、2022年7月～9月期における日本と都道府県別のGDW（Gross Domestic Well-being：国内におけるウェルビーイング実感）を本日2022年12月8日に公表いたしました。

四半期ごとの日本全体 & 都道府県別GDW

ウェルビーイング（生活の豊かさ）実感を発表

協力・情報提供：日本版Well-being Initiative・Global Wellbeing Initiative

※1：日本経済新聞社が公益財団法人Well-being for Planet Earth、有志の企業や有識者・団体等と連携して発足した団体。よりよい社会をデザインしていくためにWell-beingという概念と新指標を、これからの時代の社会アジェンダにすることを目指す。

※2：Well-being 分野における、世界各地の研究者・技術者・国際機関の関係者等で形成されたコミュニティ。Well-beingの国際調査を行うGallup社（本社：米・ワシントンD.C.）や、ニューヨーク大学、オックスフォード大学、ハーバード大学などのアカデミアなどが含まれる。

・日本全体GDWでは前期比3ポイント減。GDP同様、下降傾向。

2022年7月～9月期における、ウェルビーイング（生活の豊かさ）実感が高いひとたちの割合（※1）は、日本全体で27%でした。つまりこの時期の日本では、およそ3.7人に一人が「いまの生活にある程度満足し、かつ将来の生活に対して明るい見通しを持っていた」ということになります。この割合は前期比で3ポイントの減少、東京オリンピック・パラリンピックが開催された前年同期比で5ポイントの減少となり、GDPと同じく下降傾向を示しています。

（※1）ウェルビーイング実感が高い人たちの割合は、10点満点で自身の生活を自己評価した際に、「今の生活評価が7点以上、かつ、5年後の生活評価が8点以上」と回答した人たちの割合を示します。

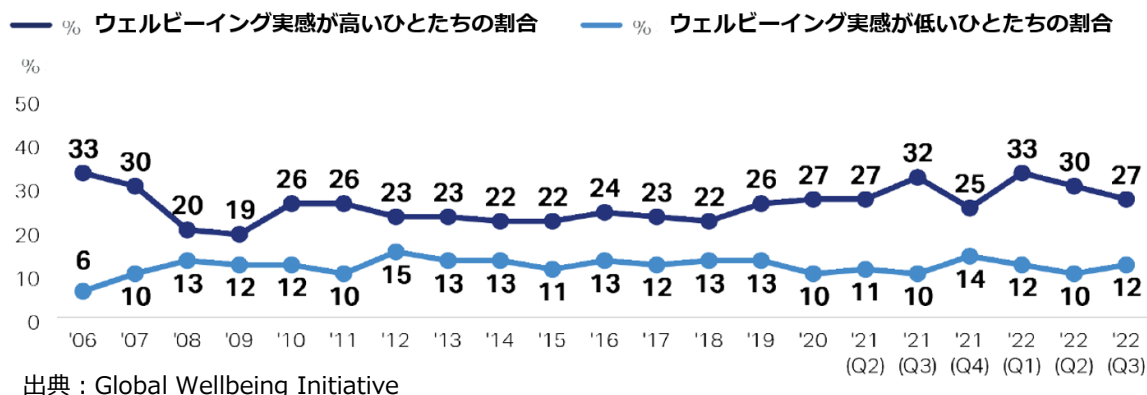
＜本リリースに関するお問い合わせ先＞

一般社団法人 ウェルビーイング学会担当者名：高野翔（たかのしょう）・石川善樹（いしかわよしき）

MAIL：info@society-of-wellbeing.jp

日本国内のGDW（ウェルビーイング/生活の豊かさ実感）の推移

2006年～現在（2022年7月～9月期）



・都道府県別GDWでは神奈川県が1位に。

2022年7月～9月期における、ウェルビーイング実感が高いひとたちの割合を都道府県別に推定（※3）したところ、神奈川県が30.7%と1位の結果となりました。神奈川県はウェルビーイング実感が低いひとたちの割合（※4）も8.9%と、全国で2番目に低い割合の自治体になっています。

神奈川県は2021年4月～6月の四半期調査開始以降、6期連続でウェルビーイング実感の高いひとたちの割合が1位です。

※3：都道府県別のウェルビーイング実感、小地域推定と無回答の補正に有効な方法の一つとして

近年世論調査において活用される、MRP（マルチレベル回帰分析と事後層化）を適用しました。

※4：ウェルビーイング実感が低い人たちの割合は、10点満点で自身の生活を自己評価した際に、

「今の生活評価が4点以下、かつ、5年後の生活評価が4点以下」と回答した人たちの割合を示します。

都道府県別GDW（2022年7月～9月期）

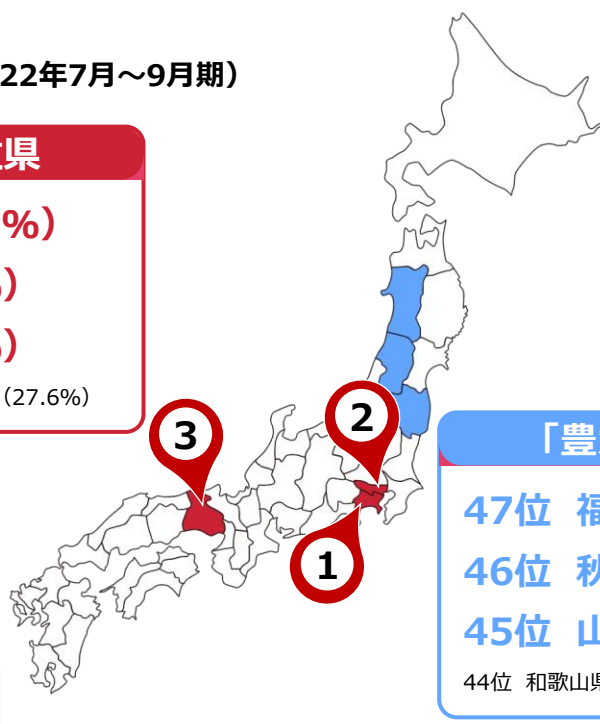
「豊かさ実感」上位県

1位 神奈川県（30.7%）

2位 東京都（29.4%）

3位 兵庫県（28.3%）

4位 大阪府（27.7%） 5位 福岡県（27.6%）



「豊かさ実感」下位県

47位 福島県（23.2%）

46位 秋田県（23.6%）

45位 山形県（23.8%）

44位 和歌山県（23.6%） 43位 静岡県（24.1%）

・GDW（Gross Domestic Well-being）について

GDWは、Gross Domestic Well-beingの略語で、国内におけるウェルビーイング（生活の豊かさ）実感を示す主観的な指標です。近年、経済社会の動向をとらえる際に、GDP（国内総生産）などの客観的なウェルビーイング指標だけでみていく限界が指摘されるようになり、主観的ウェルビーイング指標にも注目が集まるようになりました（例：イギリスにおけるGDW指標の公開）。しかし、どのように社会のウェルビーイング実感を捉えていくか、まだ様々な議論があります。GDP（国内総生産）がその誕生以来、定義や測定法が進化し続けているように、GDWも今後さらなる発展が期待されます。ウェルビーイング学会では、以上の背景を踏まえ、GDWの礎となる「主観的ウェルビーイング」について、まずは国際標準とされる「キャントリルの階梯（※5）」という測定法を用いて、日本国内の状況について四半期ごとに公開していきます。今後は新たな測定法の提案（例：京大・内田由紀子先生らの協調的幸福感尺度など）など、GDWのさらなる進化に向け、国内においても建設的な議論が起きることを期待し、また本学会としても精力的に研究を行ってまいります。

【調査概要（2022年12月8日時点）】

調査目的：日本に生きるひとり一人が、どの程度ウェルビーイング（生活の豊かさ）を実感できているか
実態を明らかにする

調査対象：日本在住の施設に入居していない 15 歳以上（N=1,012）

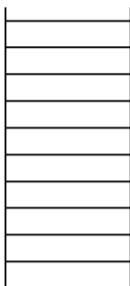
調査頻度：四半期に1回

調査方法：RDD 方式による電話調査（ただし福島県原子力被災 12 市町村を除く）

調査機関：Gallup 社 (<https://www.gallup.com>)

※5：キャントリルの階梯（かいてい）は、ハシゴをメタファーとして用い、生活を自己評価する方法です。
具体的な設問とウェルビーイング実感の算出方法は下記の通りです。

それでは、梯子（ハシゴ）を想像してみてください。
その梯子には、一番下は0、一番上には10と数字がついています。
一番上の10があなたにとって最も理想的な生活で
梯子の一番下の段が最悪の生活を表すと考えてください。



10 段目：最も理想的な生活

0 段目：最悪の生活

Q1. あなたは、今現在、はしごのどの段に立っていると感じていますか？

Q2. あなたの想像では、5 年後にはどの段に立っていると思いますか？

ウェルビーイング実感の算出方法:

ウェルビーイング実感が「高い」：今(Q1)が 7 点以上、かつ、5 年後(Q2)が 8 点以上

ウェルビーイング実感が「低い」：今(Q1)が 4 点以下、かつ、5 年後(Q2)が 4 点以下

・ウェルビーイング実感を説明する要因

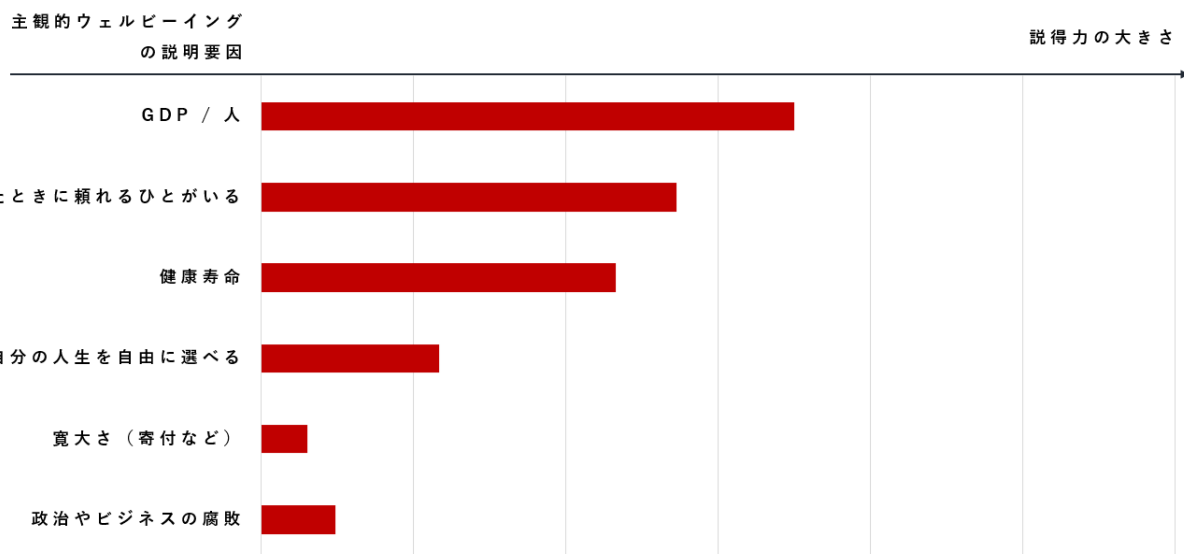
国連の持続可能開発ソリューションネットワークが毎年3月に公表しているWorld Happiness Reportでは、ウェルビーイング実感を説明する要因として、下記の6つをあげています（無論これら要因に限るわけではありません）。

- ・一人当たりGDP
- ・つながり（困ったときに頼れる人がいるかどうか）
- ・健康寿命
- ・選択と自己決定（自分の生活/人生を自由に選べるかどうか）
- ・寛大さ
- ・政治やビジネスの腐敗

日本国内を例にとれば、それぞれの要因が主観的ウェルビーイングをどの程度説明するか、下記図のように解析が行われています。

ただし、これらの要因は厳密な調査研究に基づき導かれているものではないため、今後さらなる精査が必要になることは留意頂きたく存じます。

図．日本国内の主観的ウェルビーイングの説明要因

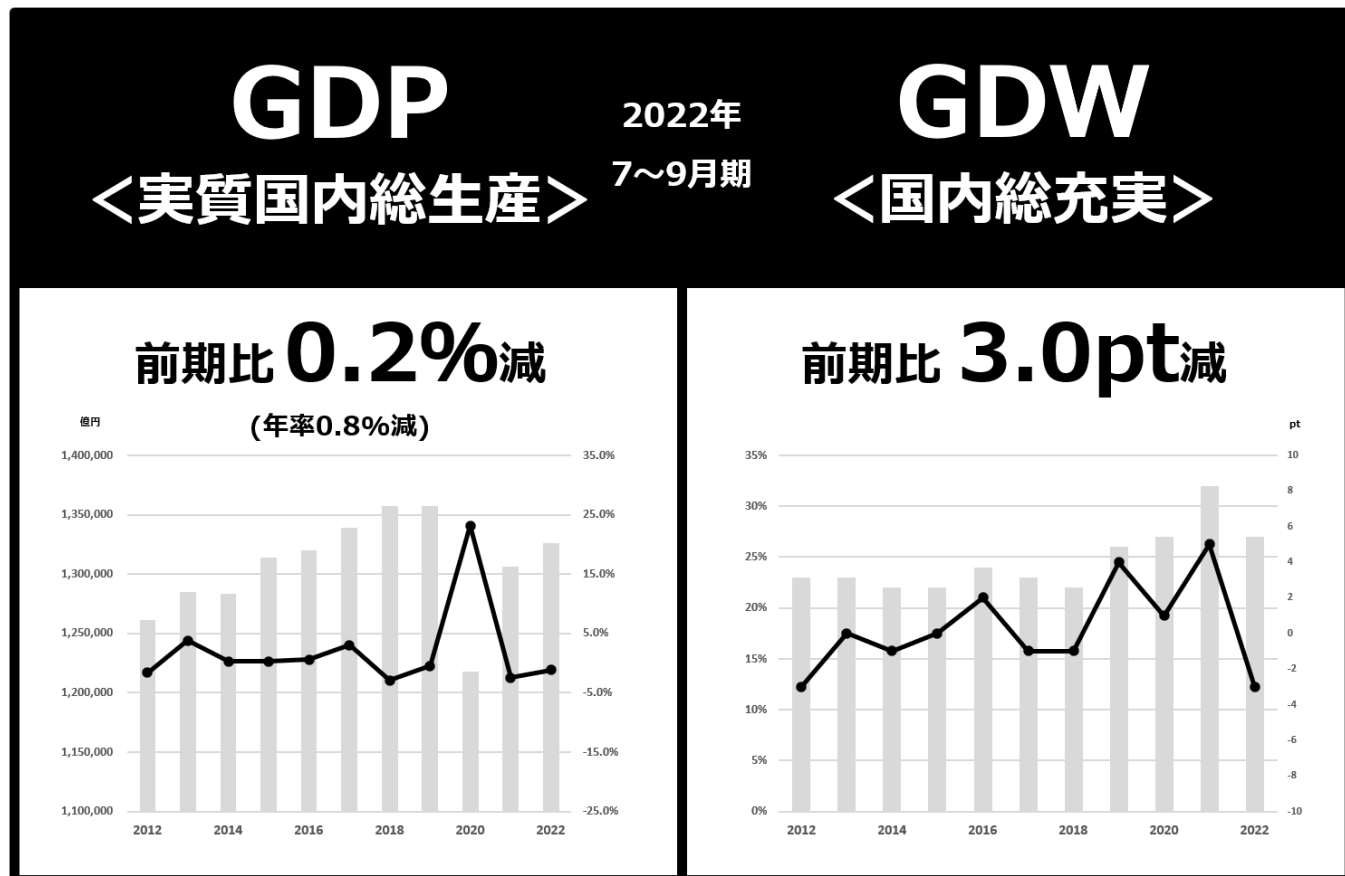


・今後の定期公表について

ウェルビーイング学会は、これらの各種調査結果を四半期ごとに、公表を行う予定です。今後は、民間企業や、国内外の有識者、アカデミア等の協力のもと、継続的な情報発信を行ってまいります。

・GDPとGDWの比較表

2022（令和4）年12月8日（木）発表のGDP2022年7-9月期（2次速報）と
同時期におけるGDW（ウェルビーイング実感）を比較した図になります。



出典：内閣府 経済社会総合研究所 国民経済計算（GDP統計）四半期別GDP速報, 2022年12月8日公表

出典：Global Wellbeing Initiative

・ウェルビーイング学会について

ウェルビーイング学会は、ウェルビーイング研究の発展を目指し2021年に設立されました。

ウェルビーイングに関する研究結果の公開や学術集会の開催などを通じて、分野横断的なウェルビーイング研究の進化と交流を推進して参ります。

事務局：〒150-6090 東京都渋谷区恵比寿4-20-4

恵比寿ガーデンプレイス グラススクエア PORTAL POINT Ebisu #B5

株式会社メディプロデュース内

TEL：03-6456-4018（平日 10:00～18:00）

・有識者からのコメント

ウェルビーイング学会代表理事 前野 隆司

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科教授 慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチ センター長



このたび、ウェルビーイング学会では、四半期ごとの日本国内および都道府県別GDWを公表することになりました。これは、幸福度の序列化や優劣比較を目指すものではなく、あくまで、定点観測することによってそれぞれの地域の幸福度向上を目指すための道標にさせていただくことが目的です。今後、時系列変化を把握することによって、それぞれの人がウェルビーイング実感を高めていくための一助となっていれば幸いです。

ウェルビーイング学会副代表理事 鈴木 寛

東京大学公共政策大学院 教授 慶應義塾大学政策・メディア研究科 教授



このたび、様々な方々のご理解とご協力を得て、四半期ごとに継続的に、我が国並びに都道府県の主観的ウェルビーイング（豊かさ実感）を調査し、発表できる体制が整いましたことは、大変意義深いことだと思っています。東京大学においても、私が代表となり、ウェルビーイング研究ユニットを作っておりますが、主観的ウェルビーイングを継続的にモニターしていくことで、従来の社会指標からでは出来なかった社会分析、社会予想が可能となることがわかりつつあります。今回の調査開始は、今後の政府や自治体の政策づくり、営利企業や非営利団体の戦略づくりにも、様々な視座や示唆を与えてくれることとなることでしょうか。

例えば、今回、神奈川県が全国一位となりましたが、同県は一貫して「未病政策」を強力に進めてきましたし、コロナ対策に果敢に取り組み続けてきましたが、その姿勢と努力により、同県民が現在及び将来の健康の維持向上についてポジティブなイメージをもっているからではないかと推測されます。

今回の調査開始をきっかけに、ウェルビーイング学会はじめアカデミアから、様々な分析や政策づくりの方法構築の可能性をさらに広げていきたいと思えます。

ウェルビーイング学会理事 高野 翔

福井県立大学 地域経済研究所 准教授



人々の幸せ実感に寄り添うことができるウェルビーイングの概念・ものさしが役割を得ることを嬉しく思います。ウェルビーイングの公共政策における活用は1970年代のブータン王国に源流があり、今日においては、様々な国々において経済社会アプローチの大きな指針となっています。これまで国際社会では、人々が豊かに生きるための社会的なインプットの一つであるGDPを、量的拡大を価値基準とするグローバルスタンダードなものさしとして活用してきましたが、負の側面として環境上限を超えた生産活動による地球環境問題や格差の拡大等の課題が生じてきています。私たちが幸せを育みともに暮らしていく上での手段と目的の関係を再整理し、社会的なアウトプットとしての人々のウェルビーイングを測定し把握していくことが求められています。今後、多様な主体との連携を通じ、ウェルビーイングを多種の環境要因とともに測定し継続的且つ長期的な調査研究を実現していくことで、単一的な経済指標のものさしではこれまで光が当たってこなかった生きづらさの解消と生きる豊かさの増進に貢献できることを期待しています。

<本リリースに関するお問い合わせ先>

一般社団法人 ウェルビーイング学会担当者名：高野翔（たかのしょう）・石川善樹（いしかわよしき）

MAIL : info@society-of-wellbeing.jp